

第 1 期山形県スポーツ推進計画（H30～R6）の施策評価

数値目標	後期改定計画 策定時実績	最終値	数値目標に対する評価・検証	
【基本方針 1】生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進				
成人のスポーツ実施率（週 1 回以上） （週 3 回以上）	60% 30%	35.2%（H28） 16.7%（H28）	40.4%（R6） 15.9%（R6）	<ul style="list-style-type: none"> 週 1 回以上の実施率は、H28年度35.2%から、R6年度40.4%となり、上昇傾向にあるが目標値には達していない。 更なる実施率の向上を図るため、スポーツ実施率の低い女性・若者を対象とした事業を実施する等、誰もがスポーツを楽しめる機会の創出等を図る必要がある。
総合型地域スポーツクラブが行う活動への参加者数	増加させる	21,300人 （H29）	35,256人 （R6）	<ul style="list-style-type: none"> 市町村からの委託事業である高齢者介護予防事業等への会員外の参加が増加したこと等により、目標を達成した。
子ども（小学生）のスポーツ実施率（1日60分以上）	60%	44.7%（H29） 男子：54.7% 女子：34.4%	39.8%（R6） 男子：50.4% 女子：29.2%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響による実施率の著しい低下に歯止めがかかったものの、目標値には達していない。 体育授業等での楽しい経験から、スポーツが好きな児童を増加させ、子どものスポーツ率向上につなげることが必要である。
スポーツや運動が「嫌い」・「やや嫌い」である中学生を減らす	10%以下	14.7%（H29）	14.5%（R6）	<ul style="list-style-type: none"> H29年度14.7%から、R6年度14.5%と横ばい傾向となっている。 体力や障がいの程度に関わらず、スポーツをする楽しさや喜びを味わえる体育授業を推進するとともに、学校、家庭、地域が連携し運動やスポーツに親しむ環境づくりを推進していく必要がある。
【基本方針 2】トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立				
オリンピック・パラリンピックでのメダリスト輩出	輩出	—	2名輩出	<ul style="list-style-type: none"> 北京2022冬季オリンピックに6名の選手が出場し、1名がスピードスケート競技男子500mで銅メダルを獲得した。 パリ2024オリンピックに5名の選手が出場し、1名が女子レスリング競技76kg級で金メダルを獲得した。
国体の天皇杯順位	20位台	31位（H29）	33位（R6）	<ul style="list-style-type: none"> R6年度は33位となり、目標値には達していない。 R5年度に本県で開催された「やまがた雪未来国スポ」では、20年ぶりに全国第4位となった。 競技団体との更なる連携を図り、成年選手の動向を確実に把握し、少年選手の早期の選抜チームの結成や一貫指導体制等、環境の充実を図っていくことが必要である。
インターハイ入賞者数（夏季） （冬季）	40以上 15以上	60（H29） 26（H29）	25（R6） 13（R6）	<ul style="list-style-type: none"> R4年度に夏季46、R5年度に夏季40、冬季15により目標を達成した。 インターハイ入賞へ向けて、学校間の垣根を越えて競技全体での強化策を講じるなど、県高体連と連携し、目標を達成した。 R6年度は、効果的かつ継続的な強化事業を実施できたが、選手の直前の体調不良等もあり、夏季・冬季ともに目標入賞数に達していない。
【基本方針 3】スポーツを通じた活力ある地域社会の実現				
ホストタウン交流事業への参加者数	8,000人 （R3）	—	10,732人 （R3）	<ul style="list-style-type: none"> 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会時はコロナ禍であったが、オンラインなど工夫を凝らしてホストタウン交流イベント等が開催され、多くの県民が参加した。 大会終了後も、ホストタウン登録自治体において、地元住民と相手国との交流事業が実施された。